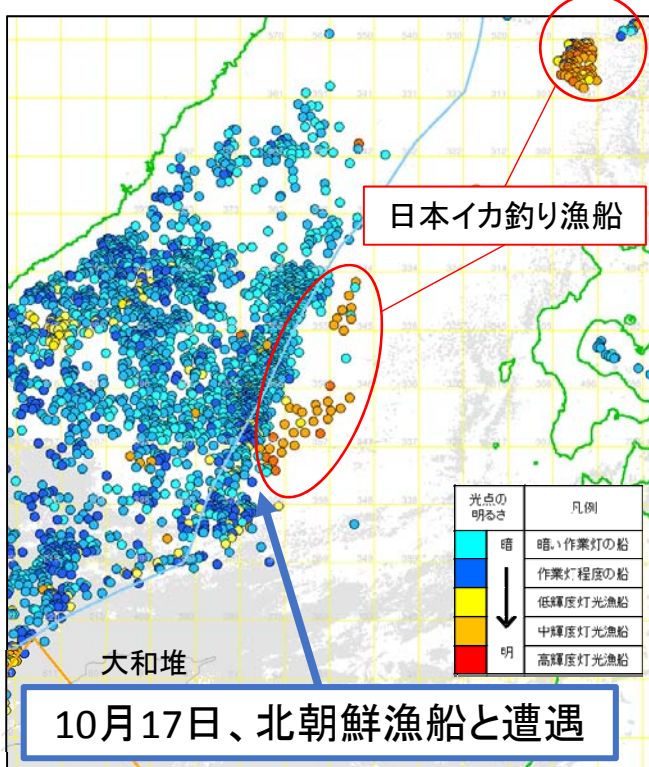


日本海大和堆周辺水域における外国漁船への対応状況について (平成30年漁期)

- 現在、北朝鮮漁船は大和堆北方の我が国排他的経済水域（EEZ）の外側に多数存在しており、日本側水域に侵入を試みています。
- そのような中、10月17日、津軽海峡西方の日本EEZ境界線から多数の北朝鮮漁船が侵入し、日本漁船と遭遇しました。このため水産庁は、同日複数の漁業取締船を日本漁船の周辺に急行させ、放水等により日本漁船周辺から北朝鮮漁船を排除するとともに、漁業取締船を日本漁船と北朝鮮漁船の間に配置するなど、日本漁船の安全確保を第一とする対応を行いました。
- その後、同水域への漁業取締船の集中配置及び海上保安庁巡視船との協力により、大部分をロシア水域側に排除しました。しかしながら、北朝鮮漁船の侵入の試みは続いており、これに対し漁業取締船は北朝鮮漁船を包囲する形を取り、放水等により日本水域からの排除に努めています。
- これまで水産庁が退去警告を実施した外国漁船は、本年5月から延べ4,893隻（本年当初からは4,895隻）であり、そのうち1,885隻に対しては放水を使用しています。（平成30年10月25日現在）
- 水産庁は今後とも、海上保安庁と連携し、日本漁船の安全操業を確保し日本水域における北朝鮮等漁船の違反操業を防止するため、全力を尽くしてまいります。

<衛星による夜間の光点画像>

10月19日の漁船等の状況



10月26日の漁船等の状況

